

平成29年度 第4回三次市地域公共交通会議 議事要旨

1. 開催概要

日 時：平成30年2月21日（金）15時00分～17時00分

場 所：三次市役所 本庁舎 6階 605・606会議室

出席者：

〔会長〕三次市 副市長 瀬崎 智之

〔委員〕

三次市地域振興部 瀧奥 恵

有限会社君田交通 松尾 宏

東河内町 近藤 幸恵

三次商工会議所 竹本 勇夫

米子工業高等専門学校 加藤 博和

備北交通株式会社 實兼 利光

三次みどりタクシー株式会社 清川 弘昭(代理)

布野町 中村 義和

私鉄中国地方労働組合備北交通支部 土井 弘文

中国運輸局広島運輸支局 重長 誠(代理)

三次市建設部 坂本 高宏

広島県警三次警察署 山本 忠士

2. 会議次第

1 開会

2 会長あいさつ

3 協議事項

- (1) 平成30年度事業計画及び予算（案）について
- (2) 平成30～32年度地域内フィーダー系統確保維持計画の変更について
- (3) 備北交通「三次布野線」の系統廃止について
- (4) 備北交通「敷名線」の系統変更及び通学定期上限運賃の設定について
- (5) 君田町内バス路線の再編について
- (6) 君田交通「川の駅三次線」の車両に係る移動円滑化基準認定除外申請について

4 報告事項

- (1) 三次市地域公共交通網形成計画事業の進捗状況について
- (2) 三次市民バス甲奴町一部停留所名及び位置の変更について
- (3) 平成29年度事業実績及び決算（見込）について

5 その他

6 閉会

【資料】

- ・平成29年度第4回三次市地域公共交通会議資料（協議事項1～6，報告事項1～3）
- ・別紙「平成30～32年度地域内フィーダー系統確保維持計画（変更）」
- ・別冊資料

3. 議 事

1. 開 会

2. 会長あいさつ

(瀬崎会長)

本日は大変お忙しい中、交通会議にお越しいただき感謝申し上げます。

今年度最後の会議になろうかと思う。今年度の振り返りと共に、いくつかの決め事の後、来年度の事業の内容等についてもご審議をいただきたい。

○連絡事項

<事務局より、会議の欠席者・代理出席者を報告し、次の事項を連絡>

- ・本会議は原則公開、傍聴席をもうけていること。
- ・会議資料及び質疑応答などの会議録は、市のホームページ上で公開すること。

3. 協議事項

<事務局より、協議事項(1)「平成 30 年度事業計画及び予算（案）について」を説明>

(加藤委員)

P1 の事業内容等について。市民タクシーは制度を見直して利用促進を図っていくということであるが、引き続き 30 年度もそれを検討・フォローする、ということが入っても良いかと思う。

三江線の代替交通については、路線バス・市民バス等に含まれているとは思いますが、上手く移行できているか、あるいは利用促進や利活用を図るといった特別な位置付けもあるかと思う。これも 30 年度にフォローしていく目配りがあっても良いかと思った。例年やっていることをトレースしただけであるので、もう少しそういったものも入っていれば良いと思う。

(事務局)

市民タクシーのご意見については、来年度からまた新しい制度の下で地域の拡大を図るということもあり、そちらの検証も含めて交通会議で報告させていただく。三江線については、非常に注目されている事業でもあるので、そちらについても改めて皆様にご報告させていただく。

(山本委員)

三江線の代替として路線バスという話しであるが、関連して安全面についても検討していただきたい。今までは大雪が降れば三江線は止まってしまうということについて、皆さんは慣れていた。それが路線バスになったときに、大雪で通れなくなるとどうなるか。先日大雪で事故があったが、その際、道路を 3 時間程度とめた。夜間であったため影響は大きくなかったが、朝の通勤通学時間帯に事故が発生し、遅れるとなると、悪い意味で三江線の廃線が注目されてしまう。特にトンネル等の安全対策

を計画の中に入れていただければ助かる。よろしくお願ひしたい。

(事務局)

交通事業者とよく協議をして安全対策についてもしっかりと取り組んでいく。

(瀬崎会長)

安全対策はこの会議で手に負えるものか。

(事務局)

事業者との緊急連絡体制なども明記することで安全対策の一翼を担えるかと思う。

(瀬崎会長)

道路の安全は土木サイドでしっかりと管理をして、公共交通に係わるものでできることがあればやらせていただくことになる。

(山本委員)

一般の署の協議会で、具体的には門田トンネルを抜けた所が急カーブになっているという話が出た。地元の方であればわかっているということであったが、そこを新たに通られる方の為の安全対策として、例えば積雪が予想されるときに「急カーブあり」の看板を出すとか、難しい事からではなく、できることから少しずつ取り組んでいただきたい。警察も出来るだけ協力していきたい。

(坂本委員)

道路管理者である広島県に伝える。

(瀬崎会長)

基本的には例年やっていることを来年さらに深めていくということである。ではこれで進めるということでご了解をいただく。

<事務局より、協議事項(2)「平成 30～32 年度地域内フィーダー系統確保維持計画の変更について」を説明>

(加藤委員)

1 便あたりの利用者数の設定根拠について教えてほしい。今の乗車人員等を考慮しているのか、あるいは新たな利用者を見込まれているのか。

また、P10 の再編特例措置について、作木線①がどういうことで新たに該当して補助対象になったのかということをお願い。

改めてこの計画を見ているが、「ですます調」で書いてある。オフィシャルなものなので、「である調」で書いたほうが良いのではないかと。

(事務局)

1点目の数値の設定について。作木線①、②は現行作木線の伊賀和志上から工業団地まで運行する便と、都賀都橋から中央病院まで運行するこの2系統を増便ないし、一部系統を変更して三江線代替バスとして運行を始めることになっている。これまでの作木線の乗車人数を参考に4.0人、3.0人という数字を設定している。川の駅三次線は新規路線ということで元の数字が無いが、この2つの路線と同等になる目標人数として4.0人と設定している。

(加藤委員)

三江線からバスに移ってくる人数はあまり想定されていないのか。

(事務局)

今までの作木線の人数よりは若干上乘せはしている。JRの正確な利用人数が把握できないので、何人増えるか、というのが具体的にはわからない。勿論、三江線の代替交通ということで、これまで三江線を利用していた方が乗られると想定している。

(加藤委員)

目標値を設定して一喜一憂するのもどうかと思うが、関係者、地域住民の方、事業者にとって目標があまりに低くても高くても良くない。皆で合意できるような数字があって、定期的にそれを見直して実施していくということが良いかと思う。

状況をみてまた目標の変更等対応していただければと思う。

(重長委員代理)

P10再編特例措置について。地域内フィーダー系統は、こういったものでもこの措置が受けられるというものではない。当然要件がある。

再編実施計画の認定を受けると財政的な処置について緩和されるというメリットがある。その中で作木線①については、通常であれば新しい路線を走らなければならないという要件があるが、そういったものが緩和される。今回、時刻の変更がメインであったと記憶しているが、新しく走る部分が少ないため通常の要件にはひっかからないが、再編実施計画の認定を受けるということで要件が緩和され、特例措置として挙げられている。

(加藤委員)

新規性は低いですが、三江線の代替ということで、大きなくくりの中では認められるということで理解する。

(瀬崎会長)

他に意見がなければ、(2)についてはこの通りで提出する。

(事務局)

大きな見直しの場合はまた報告するが、軽微な修正等であれば事務局と運輸局で調整して最終的な計画を作っていく。

<事務局より、協議事項(3)「備北交通「三次布野線」の系統廃止について」を説明>

(加藤委員)

来年度の準備をしている中高校生等もいるかと思う。そのため早めの周知をしていただきたい。また、布野の住民の皆さんのご協力やご意見があって走っているという経緯もあるため、そういったところにも周知をしていただきたい。引き続き利用促進も図ってほしい。

(事務局)

近日中に三高、青陵高校、地元の皆さんに説明する。布野の自治連については先般伺って説明をしたところである。

(瀬崎会長)

(3)についてはご了承いただいたということとする。

<事務局より、協議事項(4)「備北交通「敷名線」の系統変更及び通学定期上限運賃の設定について」を説明>

(瀬崎会長)

論点としては三和地区から三高や青陵にも行きたいという要望が地域から出ていたことの対応として、1つには部活が終わった後の帰る便がない、ということ。もう1つは定期代が高くて片道のみ利用になり難しいという話がある。

まず定期代については1万5千円を超えるものについては備北交通さんご提案の社会実験として、そもそも定期を使っている方がゼロであるので収益が下がったり、市の持ち出しがあつたりすることはないので、まず1年間試す、ということについて了解してほしい、というのが1つ。もう1つは部活の帰りの便を確保するという事。この2枚目でいうと、オレンジ色の便が出来るということか。

(實兼委員)

現行のルートについては敷名・三和支所から廻神経由・三次中央病院経由で三次駅まで入っている。この紫の系統、中学校の生徒に特化して上田小学校から有原まで行って折り返して、塩町中学校経由の三次駅行きという系統が3月まで運行の予定である。これを三和地区の高校生の利用促進を図りたいということで、三和地区から直通の青陵高校経由三次駅行きはないのでこちらに振り替える。中学生はどうするかというと、新たに川西の迫田行きで完全接続して、これは定期券の利用が大変なので同時発車にして、運賃のデメリットをなくす。系統が複雑になったが、主旨としては三和・敷名から

塩町経由の三次行きを登下校で使えるダイヤを作る，ということ。上田小学校については中央病院経由の路線が必要であるので，三和地区から乗り換えてでもこちらの系統に振り替える。経費の問題で系統が増えたが，最小限度で増やす考え方とした。

運賃については，三和地区から三次高校・青陵高校にバス通学している生徒がほとんどいない，という実績であり，定期に限らず利用が無いのでこれから少しでも利用を増やしていくということで，ダイヤと運賃をセットで利用促進を図る社会実験を実施したい。結果的には当社のこの路線だけではないので波及など色々な事を見極めて学生さんの利用を検証したい。

(瀬崎会長)

新ルートも上田から有原へ行って折り返すというのは残っているのか。

(事務局)

経費の関係で昼からの便を1便残している。

(瀬崎会長)

基本的には先ほどの機能を果たそうということであって，ダイヤについては改めて，若干の調整の結果を踏まえた最新バージョンを今週にはお送りする。もしご意見があればいただく。それ以外のところで審議をいただくということをお願いしたい。

(加藤委員)

郷の駅での乗換は自由にできるということか。高校生が今主体となっているが，現行，三和から中央病院に行きたい，という人も乗り換えなければいけなくなった，ということもあろうかと思う。

また，定期運賃の上限を15,000円ということであるが，通常の運賃は変えないということか。それでは，通常運賃の最大900円というのは残っている，と。

(實兼委員)

この通学定期のみにおいて，上限を設定する。

(加藤委員)

例えば片道定期の上限7,000円というのもあっても良いかと思う。

また，アンケートや，意見交換を実施されているが，その概要やデータもあると良いかと思う。今はゼロ人ということであるが，検証するときに現行値・目標値があった方が良い。最初のデフォルトを教えてほしい。

(實兼委員)

片道定期について，まずは高校生にバスに乗ってもらえるきっかけ作りをしたいということで，とりあえず1ヶ月の15,000円で設定している。どうしても片道が欲しい，という意見があれば検討はするが，社会実験を踏まえて次年度からの検討課題になろうかと思う。

(事務局)

現在、三次高校・青陵高校に通う三和町・375号線沿いの生徒さんの保護者からアンケートをとった。回答は17件でその内三和町は5件であった。路線バスの利用は375号線沿いの方1名のみであった。ただ、定期かどうかの確認は取れていない。その他の方はほとんど家族の送迎であったので、今回はなるべくバスの利用をしていただけるよう期待をしている。

また、ダイヤの修正の資料を委員の皆様にお送りするが、こちらをまとめたアンケートについてもお送りする。

(松尾委員)

私は三次高校のPTAをしている。三和町から通ってくる保護者の方から話しを聞く機会があった。在校生がどのようにして通学しているかを私なりに調査をしたところ、今1年生の娘さんが通われているご家族は最初は三次高校へは足がないのでやめてくれ、と言われたそうである。現在は家族の送迎で通われている。送迎がないために三和町から三次高校に来ている生徒は大変少ない。こういうバスが出来たらどうかと尋ねると、ぜひ利用する、とのことであった。PTAも協力しながら足並みを揃えていければと思う。よろしくお願ひしたい。

(瀬崎会長)

来年の4月には中高一貫校になるのでそういったことも選択肢として確保できればと思う。

それでは、基本的な事はこの会で了承とさせていただきます。

<事務局より、協議事項(5)「君田町内バス路線の再編について」を説明>

(瀬崎会長)

地域公共交通の計画を約2年前に作ったときに、路線バスについては平均して1人は乗っていることとして、収益率20%を下回るものはイエローカードということとした。その取組として、この櫃田線は市民バスと重複しており、また高野から来るバスとも重なることもあり、備北交通さんと調整してこの路線は廃止してはどうかというお話しになった。通学について備北交通さんが担っていた部分において、市民バスがフォローして再編するというところで、地域内生活検討会の中でそのような結論に至り、その案をこの会議でお示しするということである。

(實兼委員)

会長さんからお話しがあった通り、神之瀬地区、高野町と比和町からそれぞれ3路線がここで同時になる。過去にはそれぞれの便に乗車があったが、今は非常に利用が少なくなり、まとめても櫃田から1便で乗れるという状況である。そういうことで今回、市民バスとも路線的に並行しており、路線の再編をして効率的にこれから持続できる交通網を進めていくことをご提案した。運賃は乗合バスを残すと乗り継ぎのコストが高くなるが、今後はICカード等で乗継運賃の適用もできるよう腹案があったが、この度は市民バスの方が格段に安いとため、乗り継いでも結果的に安い運賃となり、利用者への運賃面での負担は低いということでスタートすることになった。

(加藤委員)

三次から櫃田口間も便数が減るのか。

(實兼委員)

減便になる。

(加藤委員)

利便性が低下するとは思いますが、何かフォローはないのか。

(實兼委員)

運行の回数としては減るが、割と近いダイヤがあるのでそこを調整することで利便性が下がるとは見込んでいない。

(瀬崎会長)

他に意見がないようであれば、協議事項(5)については事務局から提案されたもので了承ということが良いか。

(一同了承)

<事務局より、協議事項(6)「君田交通「川の駅三次線」の車両に係る移動円滑化基準認定除外申請について」を説明>

(瀬崎会長)

当然、車両に車イスが乗れる所があった方が良いが、この度は道路が狭く、やむなくということでご了解いただきたい。

それでは協議事項(6)についてはご了解いただいたということが良いか。

(一同了承)

4. 報告事項

<事務局より、報告事項(1)「三次市地域公共交通網形成計画事業の進捗状況について」を説明>

(瀬崎会長)

先ほどの話しに関して、廃止する系統はP17の11番であり、収益率は20%を上回っている。しかしながら、今回の廃止は、収益率20%を下回る26番と連動しているということなので理解してよいか。実質

的にこの11番を先に手がけるが、これで26番も改善されるはずである、という理解でよろしいか。

(實兼委員)

総合的にはそういうことになる。

(瀬崎会長)

了解した。先ほどの部分を訂正させていただく。

<支所より、計画事業7「地域内生活交通検討会の開催について」を説明>

(君田支所)

君田地域ネットワーク協議会というものがあり、そのメンバーを中心に検討会を平成28年10月に設置し、これまでに4回の会議を開催した。今年度は櫃田線の廃止もあり、市民バスの改編を中心に協議をして皆さんの合意を得た。今後も検討会は継続してよりよい交通体系を作っていこうということで毎年会議をすることになっている。

(作木支所)

作木町地域づくりネットワーク協議会を平成28年8月9日に設置した。人口減少から地域を守るための定住対策を目的とし、町内の各種団体を束ねた組織で設立したものである。交通部門については三次市地域交通網形成計画に基づいて公共交通に関する問題解決に向けた検討組織ということで、公共交通検討部会を、作木町地域づくりネットワーク協議会の傘下の組織ということで設置している。

検討部会の中では三江線の代替交通手段の検討、作木町内における市民バス等の交通手段の検討をしている。

4月1日から新交通体系ということになり、住民に周知・利用促進をするための説明会を続けてきた。今月の23日にも会議の開催を予定している。

(吉舎支所)

吉舎町では地域内生活交通検討会を平成29年2月に、地域内の交通網をどうしていくか考えていこう、ということで立ち上げた。今年度は2回会議を開いた。その中で吉舎中学校、日影館においてアンケート調査を行った。1月30日に調査結果を集約し、それを基に30年度は地域内交通どうしていくかということを考え、提案していく。

(三和支所)

三和町地域ネットワーク協議会の中に地域内交通検討会を設置している。29年度においては6月に高校生以上の全町民を対象とした生活交通に関するアンケート調査を行った。事前に自治連合会の理事会等で検討しながら調査内容を決めた。回収率は67.3%であった。事務局で集計・分析を行い、先日ほぼまとまったということで検討部会を開催し、状況等を説明した。今後はどうしていくか、ということで進めていく。

(事務局)

もう1ヶ所、川西地区でも設立されており、28年に1度ワークショップ形式で開催されている。交通に関しては各部会等で協議が進められているが、検討会という大きな単位での開催は無い。

<事務局より、報告事項(2)「三次市民バス甲奴町一部停留所名及び位置の変更について」を説明>

<事務局より、報告事項(3)「平成29年度事業実績及び決算(見込)について」を説明>

(加藤委員)

P10に利用促進策の検討(乗換環境、ダイヤ)とあるが、P8,9には載っていない。利用促進策としては具体化していないので、実績の方には載せていないということであろうが、先ほどの三和での高校生利用等も利用促進策の検討の一環かと思う。ここで具体的にどのようなことを検討されたのか教えてほしい。

また、本日の資料には無いが、広島空港連絡バスの利用促進に向けて事業者等にアンケートを実施されたと思うが、そういったものも交通会議の実績として挙げても良いかと思う。またそちらのアンケートがとりまとめられたら教えていただきたい。

(事務局)

P10の利用促進策の検討について。加藤委員のおっしゃったように、君田町の市民バスの再編、乗換環境の整備、川の駅をハブ化して乗換を促すといったものをP10には記載している。こちらの内容は事業計画の1及び3と重なっており、P8,9には掲載していない。

広島空港連絡バスについて。この交通会議は地域内の交通を検討する、ということで広域的なものについては報告事項として扱う、ということも昨年の会議の中で報告した。そういった意図で、あえて事業計画には入っていない。事業の報告、利用状況についてはこちらで引き続き報告するが、1事業として掲載はしないものとして整理している。

(重長委員代理)

P9の計画事業9について。自主返納の推進ということで、今年度は187人の実績があった。タクシー利用助成券、パスピーを希望されているが、男性の方が多めに来られている。個人的な感覚として、一般的に公共交通を利用するのは女性が多いかと思ったが、何か傾向等はあるのか。

(事務局)

そもそも高齢で免許を保有されている方が男性の方が多いのでこういった数字が出ているかと思う。返納される方の傾向について、申請書の裏にアンケートがあり、必ず答えてもらっている。これをまとめて集計をしているので、29年度分がまとめればまた交通会議の中でご報告する。

(瀬崎会長)

増えている要因は、警察で実施されている免許更新の高齢者講習の部分も当然あるかと思うが、

市でもタクシー券の額を拡充したり、メニューを増やしたり、利用可能な期間を長くしたり、といったことを今年度から取り組んでいる。そういったこともあり、増えているのかとも思う。

また、地域内検討会について、開かれていない支所の実状について教えてほしい。

(布野支所)

布野では協議会の名前は付けていないが、平成 25 年から実施している。アンケートも実施した。その結果、先ほどの高校の関係の要望や、道の駅の乗り入れといった形で備北交通のご協力を得ている。

高校の便に関しては、当初は三次駅からよかったが、高校前からという形で運行していただいたものの、この度そこまで乗り入れなくても良い、ということになった。

今後、三江線の代替において、国道 54 号が今の 3 便から 5 便になるということで増便になる。まだ時刻表が確定していないが、その中で市民バスの乗り継ぎが上手くできない部分も見受けられたので、今年度ないし来年度に検討していく。

(三良坂支所)

三良坂では平成 17 年から、ふれあいタクシー三良坂が運行されている。利用者数は年々減少傾向にあり、利用促進について商工会、支所でその都度検討しているので今の所、検討会の設置予定はない。

(瀬崎会長)

全体を通して何か質問はあるか。

(竹本委員)

2 月の広報を見たが、平成 28 年の 6 月から議会で地域公共交通調査特別委員会というのが実施されているのを初めて知った。毎年色々な所へ視察・研修に行っておられて、この度は平成 29 年 10 月に兵庫県と京都に視察に行っておられる。この会議の中で視察の報告を若干でもお聞かせ願いたい。今後の会議の参考にできるかとも思う。

(瀬崎会長)

議会事務局に相談させていただく。

(加藤委員)

P18 の作木の部会について、2 月 23 日であるのでまだ実施されていないが「自動運転活動に関する実証活動について」とあるが、何か実証的にされているのか。内容を教えてほしい。

(作木支所)

まだスタートしたばかりではあるが、広島県とマツダで進められている自動運転の実証を一緒になって進めていく、というものである。これは I T 技術を活用した住民の支え合いによる地域内移動手段の確保に向けた実証実験ということで、県・三次市・NPO 元気むらさくぎ、マツダで検討するものであるが、今はその前段階の状況である。狙いとしては、I T 技術を活用して、人・物・情報を繋

いでいくこと。自家用有償運送のニコニコ便を活用しながら、交通手段の確保をどういう形で目指していくか、どんな移動手段であれば住みよいかという住民の思いを吸収している段階である。これについては地域部会の会議と地域交通検討会議によって意見を出し合っ取りまとめていくというのが23日の会議である。まだ情報収集の段階である。

(事務局)

川西地区でも同様に、マツダ・県と一緒に、地域限定の中で公共交通を考える、ということを進めており、地域の皆さんからヒアリング・調整を行っている。

5. その他

(なし)

6. 閉 会

以 上